

桐生商工会議所管内
景況調査報告書

第109回

(平成27年4～6月期)

平成27年8月
桐生商工会議所
桐生中小企業相談所

調 査 要 領

1. 調査目的 本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、情報化社会に対応した企業経営の指針とするとともに、今後の経営支援の参考に資することを目的とする。
2. 調査時点 平成27年6月1日
3. 調査期間 平成27年4～6月期
4. 調査対象企業数 396企業（うち回答企業数158企業）

5. 調査対象業種

①建設業（回答企業数15企業）

建築・大工業、土木業、管工事業、とび・コンクリート業、鉄骨・鉄筋業、電気工事業、左官・屋根業、塗装業、板金業、その他

②商業・サービス業（回答企業数76企業）

卸売業、小売業、飲食業、サービス業

③製造業

機械金属関連業（回答企業数36企業）

鉄鋼業、金属製品製造業、一般機械器具製造業、電気機械器具製造業、輸送用機械器具製造業、精密機械器具製造業、プラスチック製造業、その他

繊維工業（回答企業数31企業）

撚糸業、織物業、染色整理業、ニット・メリヤス業、レース業、縫製業、刺繍業、その他

DIとは、ディフュージョン・インデックス（D i f f u s i o n I n d x）の略で、このDIの変化を分析することにより経済動向の判断を行います。

このDIは、好転企業の割合から悪化企業の割合を差引き算出し、好転が悪化を上回る場合プラス（+）となり、逆に悪化が好転を上回る場合マイナス（-）となります。

DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要です。

1. 景況の動き

【業況DI】

今期の業況DIは、全体で**-30**。前期（-35）比は+5ポイントであった。また前年同期（-29）比では-1ポイントであった。

業種別では、**建設業-7**（前期比+3、前年同期比+9）、**商業・サービス業-45**（前期比+3、前年同期比-3）、**機械金属製造業-18**（前期比+13、前年同期比-3）、**繊維製造業-21**（前期比+6、前年同期比-2）となった。

【採算DI】

今期の採算DIは全体で**-35**。前期（-35）比は±0ポイント、前年同期（-35）でも±0ポイントであった。

業種別では、**建設業-40**（前期比-20、前年同期比-12）、**商業・サービス業-45**（前期比+7、前年同期比-1）、**機械金属製造業-26**（前期比-3、前年同期比±0）、**繊維製造業-17**（前期比+6、前年同期比+9）となっている。

【来期業況DI】

来期の業況予測DIは全体で**-27**。前期（-28）比は+1ポイント、前年同期（-24）と比べると3ポイントのマイナスであった。

業種別では**建設業-7ポイント**（前期比+5、前年同期比+11）、**商業・サービス業-36ポイント**（前期比+10、前年同期比-3）、**機械金属製造業-21ポイント**（前期比-7、前年同期比+2）、**繊維製造業-21ポイント**（前期比-9、前年同期比-9）となっている。

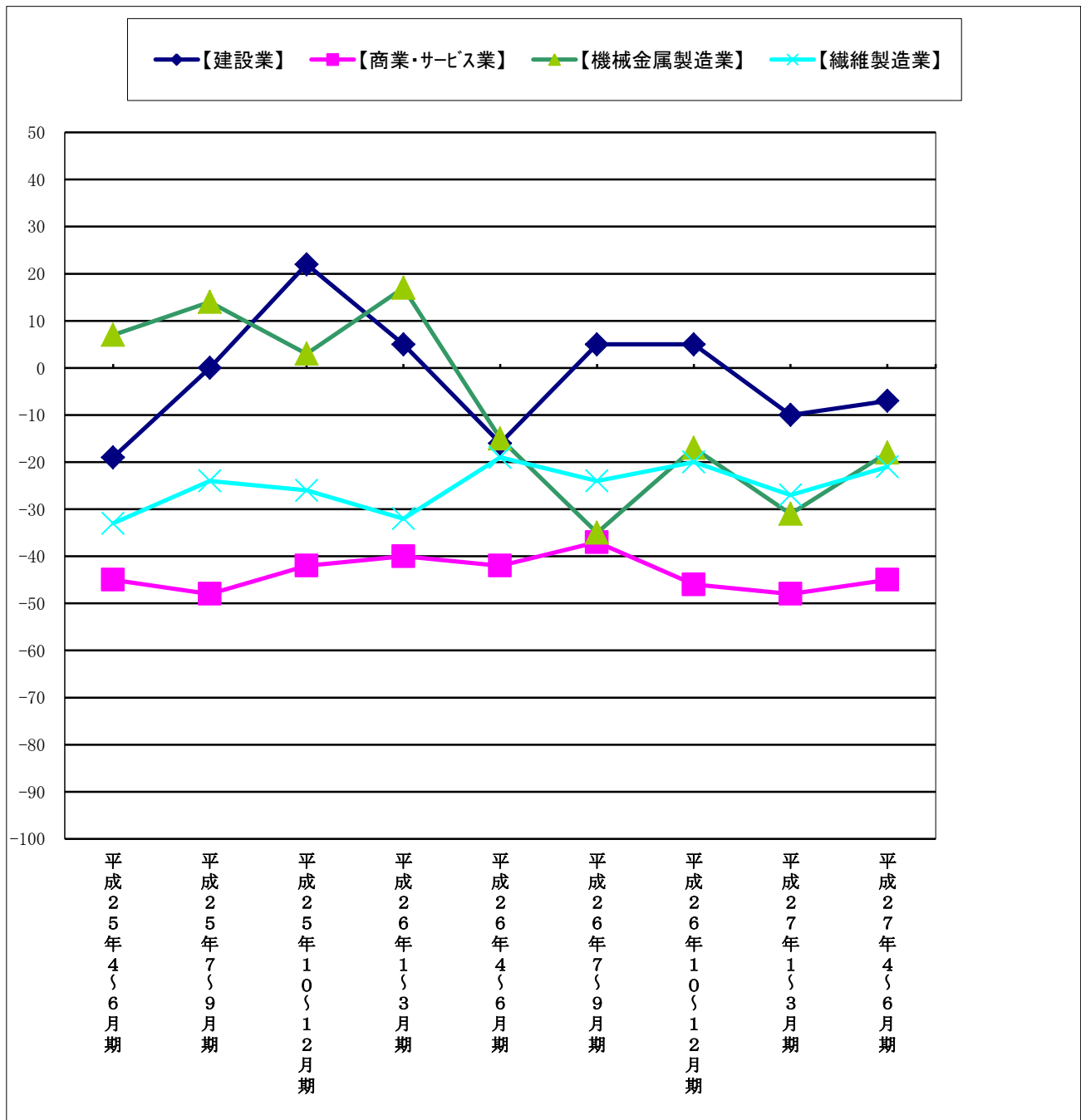
【経営上の問題点】

経営上の問題点としては、**建設業**では「民間需要の停滞」（18%）「請負単価の低下・上昇難」（15%）**商業・サービス業**では「需要の停滞」（19%）「消費者ニーズの変化への対応」（14%）、**機械金属製造業**では「製品単価の低下・上昇難」「需要の停滞」（ともに16%）、**繊維製造業**では「製品単価の低下・上昇難」（20%）「需要の停滞」（18%）となっている。

業況DIの推移

	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
平成25年4～6月期	-19	-45	7	-33
平成25年7～9月期	±0	-48	14	-24
平成25年10～12月期	22	-42	3	-26
平成26年1～3月期	5	-40	17	-32
平成26年4～6月期	-16	-42	-15	-19
平成26年7～9月期	5	-37	-35	-24
平成26年10～12月期	5	-46	-17	-20
平成27年1～3月期	-10	-48	-31	-27
平成27年4～6月期	-7	-45	-18	-21

[平成25年4～6月期] から [平成27年4～6月期]



2. 業種別の今期の業況・来期の業況予測

【建設業】

- 今期業況 **今期の業況DIは-7**。前期比は+3、前年同期比では+9であった。
業種別では**建築・大工業 [-17]、土木業 [-33]、電気工事業 [+25]、その他 [±0]**であった。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは-7**。前期比で+5、前年同期比では+11ポイントであった。

【商業・サービス業】

- 今期業況 **今期の業況DIは-45**。前期比は+3、前年同期比では-3ポイントであった。
業種別では、**卸売業 [-67]、小売業 [-38]、飲食業 [-38]、サービス業では [-59]**となっている。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは-36**。前期比+10、前年同期比では-3ポイントとなった。

【機械金属製造業】

- 今期業況 **今期の業況DIは-18**。前期比では+13、前年同期比では-3ポイントであった。
業種別では、**鉄鋼業 [-50]、金属製品業 [±0]、一般機械器具業 [-33]、電気機械器具業 [+100]、輸送用機械器具業 [-50]、精密機械器具業 [±0]、プラスチック製造業 [+25]、その他 [-17]**となっている。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは-21**。前期比-7、前年同期比+2ポイントとなった。

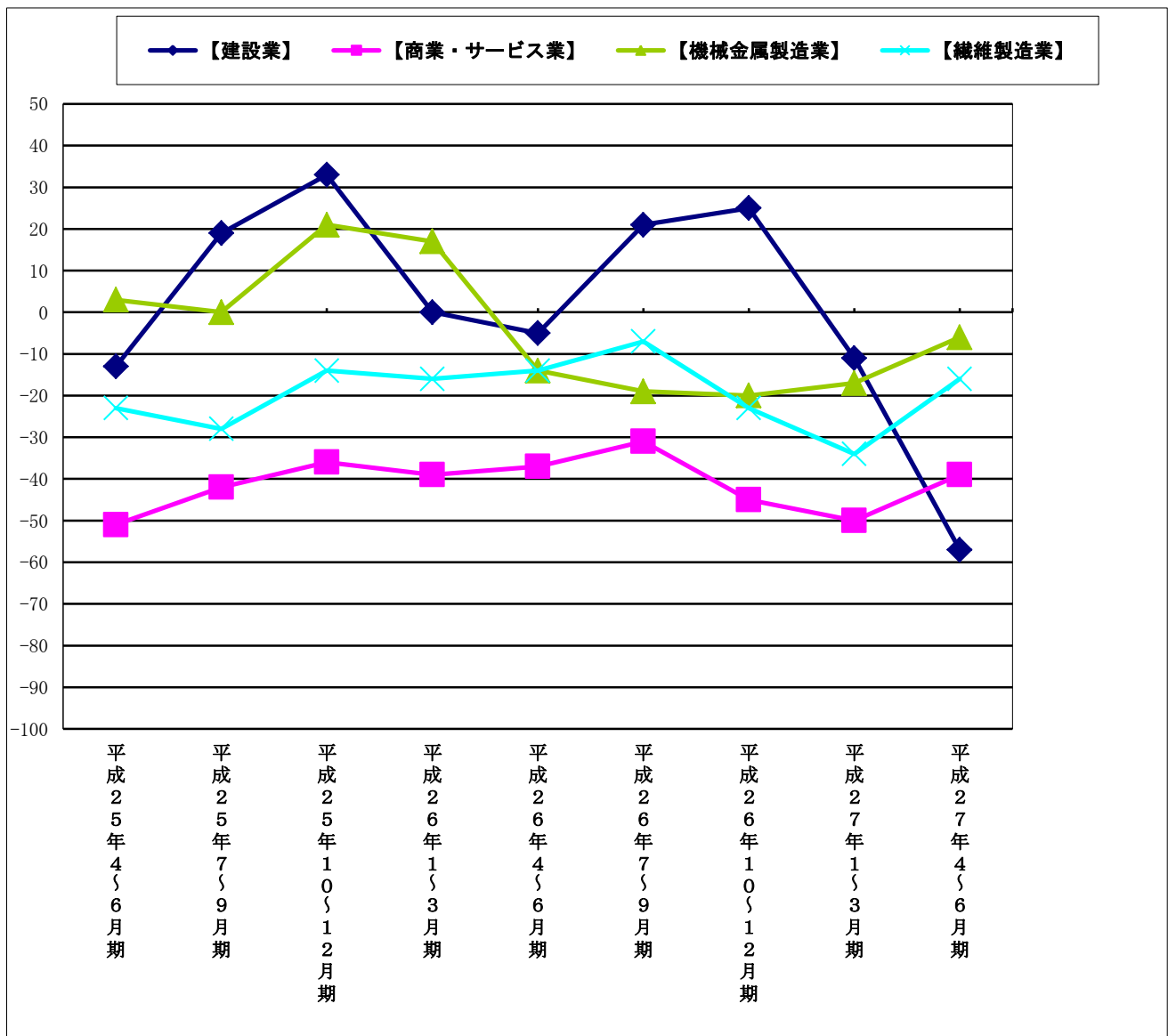
【繊維製造業】

- 今期業況 **今期の業況DIは-21**。前期比では+6、前年同期比では-2ポイントであった。
業種別では、**燃糸業 [+100]、織物業 [±0]、染色整理業 [-100]、ニット・メリヤス業 [-50]、レース業 [-100]、縫製業 [-33]、刺繍業 [±0]**となっている。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは-21**。前期比-9、前年同期比でも-9ポイントとなった。

売上額（完成工事額）DIの推移

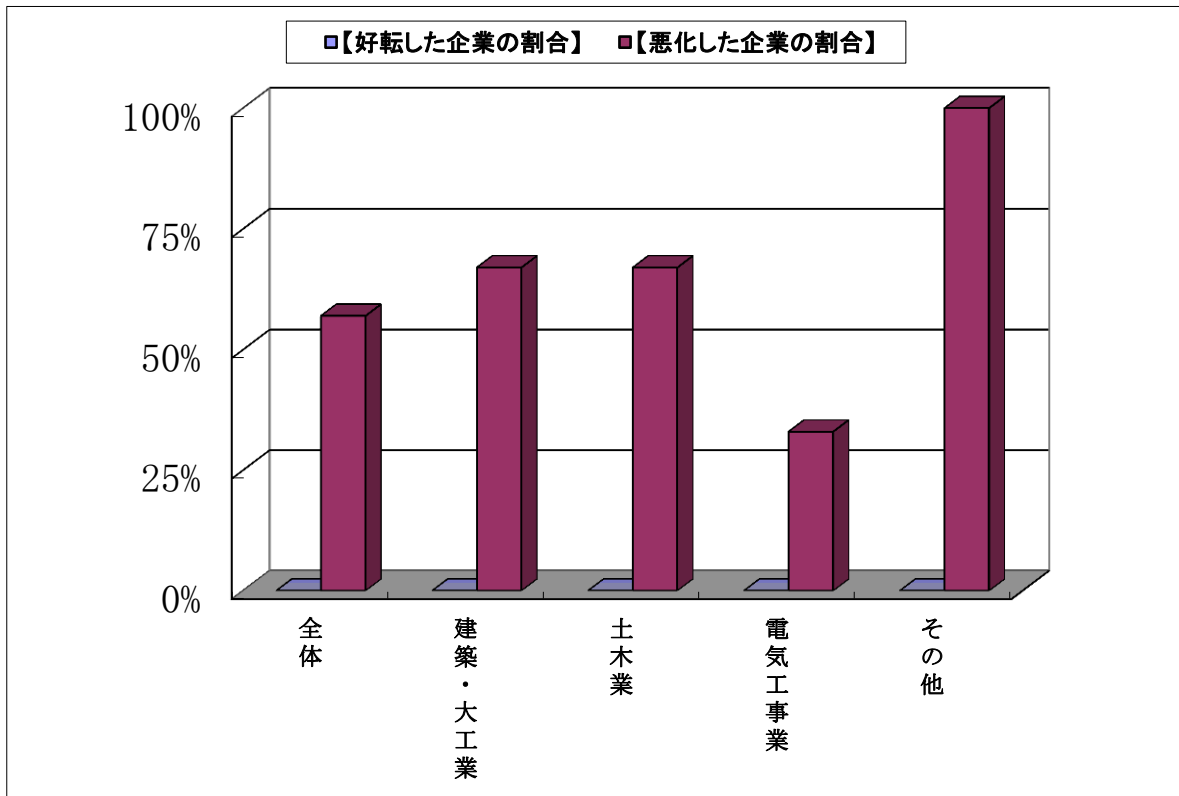
	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
平成25年4～6月期	-13	-51	3	-23
平成25年7～9月期	19	-42	0	-28
平成25年10～12月期	33	-36	21	-14
平成26年1～3月期	±0	-39	17	-16
平成26年4～6月期	-5	-37	-14	-14
平成26年7～9月期	21	-31	-19	-7
平成26年10～12月期	25	-45	-20	-23
平成27年1～3月期	-11	-50	-17	-34
平成27年4～6月期	-57	-39	-6	-16

[平成25年4～6月期] から [平成27年4～6月期]

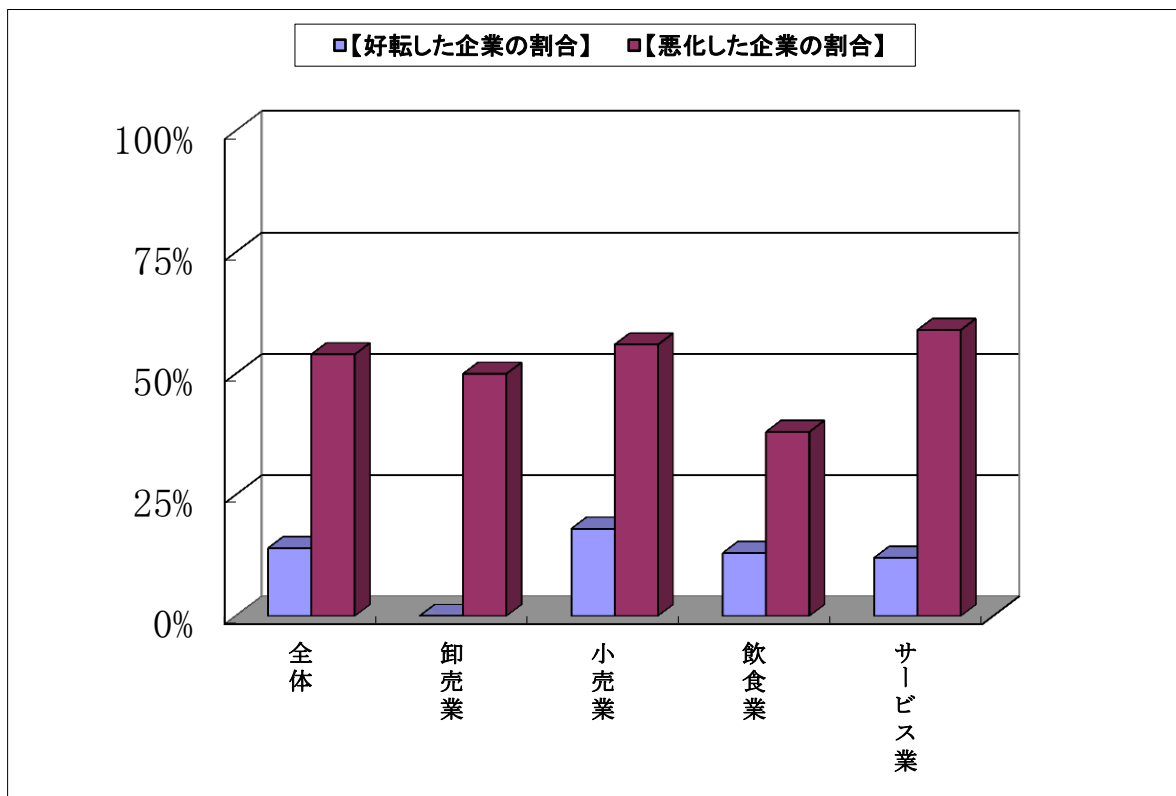


業種別売上額（完成工事額）の状況〈前年同期比〉

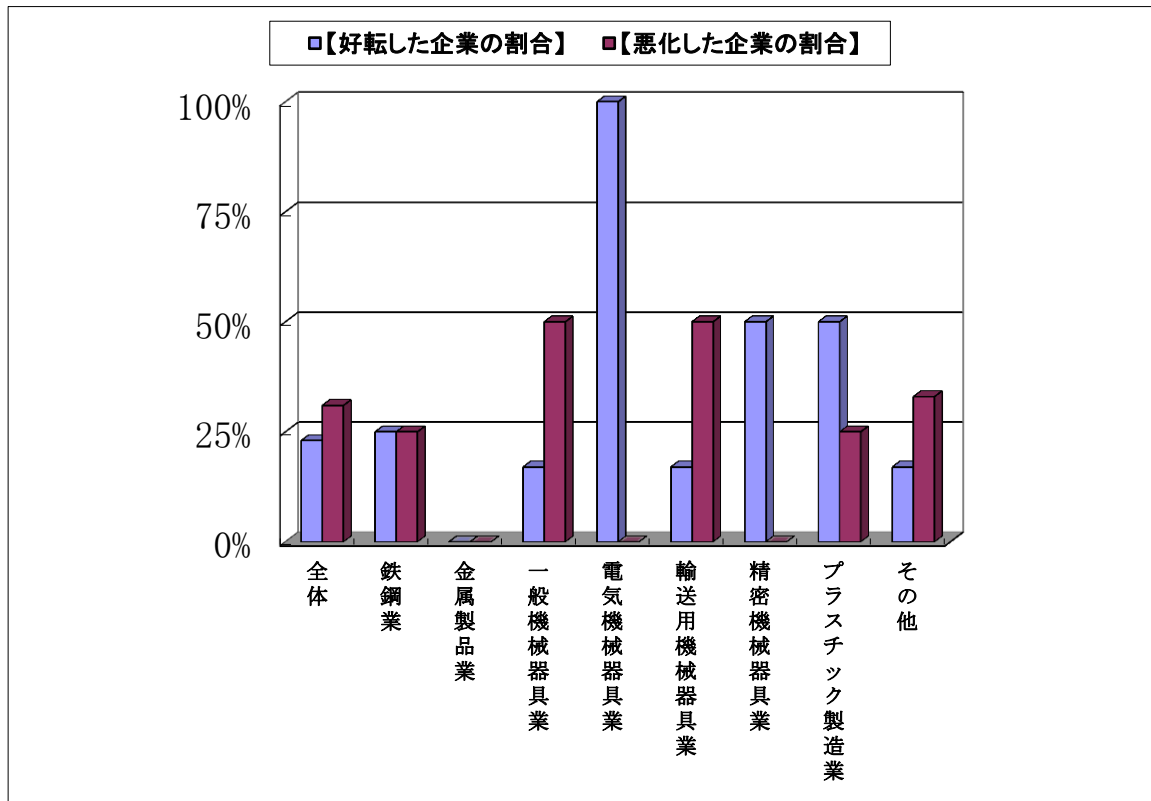
【建設業】



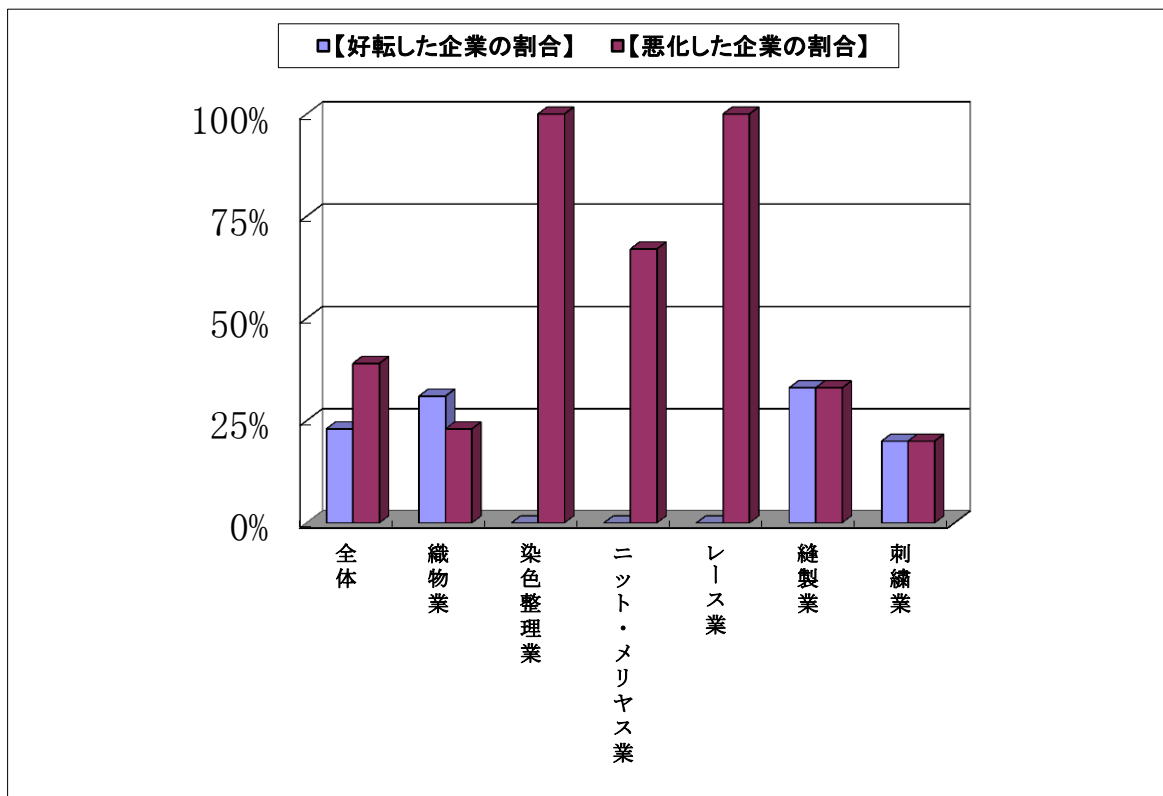
【商業・サービス業】



【機械金属製造業】



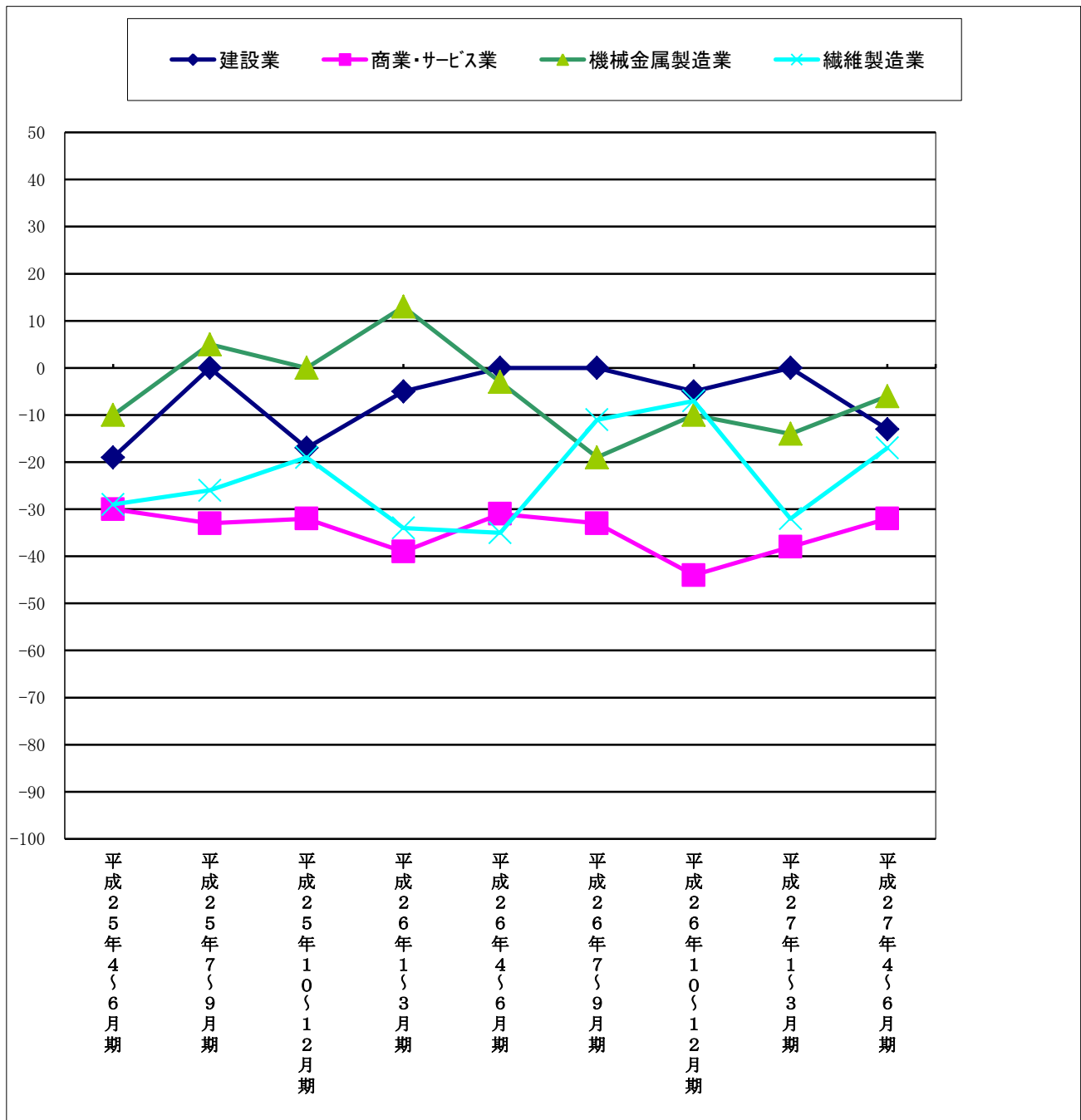
【繊維製造業】



資金繰りDIの推移

	建設業	商業・サービス業	機械金属製造業	繊維製造業
平成25年4～6月期	-19	-30	-10	-29
平成25年7～9月期	±0	-33	5	-26
平成25年10～12月期	-17	-32	±0	-19
平成26年1～3月期	-5	-39	13	-34
平成26年4～6月期	±0	-31	-3	-35
平成26年7～9月期	±0	-33	-19	-11
平成26年10～12月期	-5	-44	-10	-7
平成27年1～3月期	±0	-38	-14	-32
平成27年4～6月期	-13	-32	-6	-17

[平成25年4～6月期] から [平成27年4～6月期]



今期直面している経営上の問題点

	1位(%)	2位(%)	3位(%)	4位(%)	5位(%)	
建設業	民間需要の停滞	請負単価の低下・ 上昇難	材料価格の上昇	熟練技術者の 確保難	材料費・人件費 以外の経費の増加	官公需要の停滞
	18.4	15.8	13.2	10.5	7.9	7.9
	前期 1位 15.4	2位 13.5	3位 11.5	3位 11.5	7位 5.8	7位 5.8
前年同期	3位 9.6	1位 13.5	3位 9.6	10位 3.8	5位 7.7	9位 5.8
商業・サービス業	需要の停滞	消費者ニーズの 変化への対応	購買力の他地域 への流出	販売単価の 低下・上昇難	材料等仕入単価の 上昇	
	19.0	14.9	10.8	8.2	7.7	
	前期 1位 20.8	2位 13.7	2位 12.0	5位 6.0	4位 7.7	
前年同期	1位 18.8	3位 10.8	2位 14.1	5位 7.5	4位 8.0	
機械金属製造業	製品単価の低下・ 上昇難	需要の停滞	熟練技術者の 確保難	生産設備の不足・ 老朽化	原材料費・人件費 以外の経費の増加	
	16.7	16.7	11.9	10.7	9.5	
	前期 1位 17.0	2位 13.6	4位 9.1	3位 10.2	6位 6.8	
前年同期	1位 22.9	2位 15.7	5位 7.2	3位 10.8	8位 3.6	
繊維工業製造業	製品単価の低下・ 上昇難	需要の停滞	原材料価格の上昇	生産設備の不足 ・老朽化	製品ニーズの 変化への対応	
	20.5	18.1	12.0	10.8	9.6	
	前期 1位 19.3	1位 19.3	3位 14.8	5位 9.1	4位 11.4	
前年同期	2位 17.1	1位 21.1	5位 7.9	4位 10.5	3位 11.8	

今期の従業員数D I

	建設業	商業・サービス業	機械金属製造業	繊維製造業
平成25年4～6月期	6	-11	23	-10
平成25年7～9月期	6	-4	8	-9
平成25年10～12月期	-6	-9	16	-15
平成26年1～3月期	-5	-12	21	-14
平成26年4～6月期	22	-4	19	-12
平成26年7～9月期	26	-15	18	±0
平成26年10～12月期	20	-11	8	7
平成27年1～3月期	5	-2	15	±0
平成27年4～6月期	±0	-3	-6	-17

事業所からのコメント（直面している問題点など）

【建設業】

- ・通年に比べて官公の発注が遅い。材料費、労務費、運賃費等は工事の発注に関係なく上昇傾向。従業員の確保も難しくなって来ている。
- ・来客用、社員用等の駐車場の確保

【商業・サービス業】

- ・当社は卸・小売を主体としているが、売り先及び新規顧客自体の活力が無く、確保や増加が難しい。取扱内容は一般消費者の需要は多少増える傾向であるが、販売先となるオーナーさんが増えない事には当社は利益が出せず、結果当社も赤字とならざるを得ない。
- ・店主の老化にともない、お客様が少なくなっている。
- ・商店街のシャッター通り化が加速している。新規出店もあるが飲食店が多い。店舗が閉店することにより、商業地域としての悪循環に陥っている。商店街の活性化にはいろいろな業種の店がオープンして人出がもっと多くなればと思う。今の状況では厳しさは増すばかりである。
- ・高齢者の増加と商圈の縮小により、店売りが厳しい。
- ・円安による輸入価格の上昇により原価率が悪くなっている。
- ・家族葬等の低価格の葬儀が増加し、事業経営が難しくなっている

【機械金属製造業】

- ・営業力アップ、設備投資、技術力強化などを集中的に行い、高付加価値製品の受注を目指していきたいと考えている。
- ・消耗品や、その他購入品並びに油脂燃料は、もれなく値上げされているが、製造単価は値上げされない。
- ・昨年の売上と比べると、本年は従前に戻ったという感じです。社員の平均年齢が下がると同時に熟練者が少なくなっている。